

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	5月
基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当金 2月末日 中間配当金 8月末日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 電話お問合せ先	東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701) 住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店

株式会社テイツー

IR窓口:東京都港区芝公園二丁目4番1号 芝パークビルA館8F
TEL (03)5408-5532 メールアドレスir@tay2.co.jp

インターネットホームページ <http://www.tay2.co.jp>



株主の皆様へ

第21期中間報告書

(2010年3月1日～2010年8月31日)

株式会社テイツー

Top Interview

トップインタビュー

上半期の業績 について

当上半期は、古本市場事業におきましては、一部の店舗において大規模な店舗改装を行うなど店舗競争力の強化に努めてまいりました。アイ・カフェ事業におきましては、新たなコミュニケーションサービスを提供する「USTREAM®スタジオ アキバ」をアイ・カフェAKIBA PLACE店内に開設するなど顧客サービスの強化に努めました。連結子会社であるインターピア株式会社におきましては、店舗運営ソリューション関連事業の既存店PC入替等により好調に推移いたしました。EC事業におきましては、各種販促活動の実施などによる売上拡大を図ったほか、マーケットプレイスにおける販売強化に努めてまいりました。こうした結果、連結売上高は180億9千6百万円（前年同期比5.0%減）、連結営業利益は3億2千9百万円（前年同期比49.7%減）、連結経常利益は3億1千3百万円（前年同期比49.1%減）、連結中間純利益は1億5千8百万円（前年同期比37.7%減）となりました。

通期の見通し

古本市場事業におきましては、引き続き徹底したコスト管理と、効率的な店舗オペレーションの確立に向けて努力してまいります。なお、店舗・ECの在庫管理レベルの統一や物流センターの統合による在庫の有効活用などを視野に入れ、リアルとオンラインの融合をより具体的に進めていくことにより、お客様に幅広い満足を提供してまいります。

アイ・カフェ事業におきましては、新たなコミュニケーションサービスの提供や店舗に設置されているPCを活用した新しいビジネスモデルの構築により、顧客サービスの強化に努めてまいります。連結子会社であるインターピア株式会社におきましては、店舗運営における売上向上やコストダウンをテーマとする新規サービスの拡販を推進してまいります。

EC事業におきましては、買取の拡大、品揃えの充実、モバイル機能の強化などを含む根本的な販売力の強化に注力すると同時に利便性の向上を図ってまいります。また、マーケットプレイスにおける販売も強化し、売上向上に努めてまいります。

連結売上高につきましては、雇用情勢の悪化や個人消費の伸び悩みなど、依然として厳しい経営環境が続いているものの、上半期売上高がほぼ計画通りに推移したことを鑑み、当初の計画通り420億円となる見込みであります。利益面におきましては、連結営業利益は10億5千万円（前期比13.0%減）、連結経常利益は10億円（前年同期比11.1%減）、連結当期純利益は5億円（前年同期比32.6%減）を見込んでおります。



代表取締役社長
大橋 康宏

Topics

トピックス

業務提携基本合 意書締結に関す るお知らせ

テイツウの強みであるリユース事業のノウハウと、CCCの強みであるTSUTAYA事業のノウハウ、双方の強みを生かした新たな店舗価値の創出。

当社は、平成22年10月12日開催の取締役会においてカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長兼 CEO：増田宗昭、以下「CCC」）との間で、業務提携基本合意書を締結し、業務提携に向けて具体的な検討を進めることを決議いたしました。

当社の有するリユース事業における事業ノウハウと、CCCが全国に展開する「TSUTAYA」のフランチャイズ本部として有する事業ノウハウを相互に融合させることで、エンタテインメント市場の活性化、両社の競争力強化及び長期継続的成長を実現していくことが可能と考えており、そのためのパートナーとして業務提携の検討を進めていくことを目的として基本合意に達しました。CCCと当社は以下の分野において戦略的提携を行うべく協議してまいります。

- 両社の直営店舗及びFC加盟店舗で取り扱うエンタテインメント商材の相互供給
- 両社の店舗パッケージ及び商圈の強化を目的としたマルチパッケージ×マルチユース化推進

USTREAM® スタジオ アキバ

平成22年7月9日より、アイ・カフェAKIBA PLACE店におきまして、ライブ動画中継配信サービス「USTREAM®」を活用した新たなコミュニケーションサービスを提供する「USTREAM®スタジオ アキバ」を開設いたしました。平成22年7月9日に開設記念イベントといたしまして、歌手の広瀬香美さんをお招きし、USTREAM®番組「Friday Kohmi」の生放送を特設スタジオにて行いました。

このような新たな取り組みを行うことで、当社グループの成長戦略の一つである「リアルとオンラインの融合」による収益シナジーを生み出していけると考えております。



漫画アプリ大賞 を創設

プロ・アマを問わず幅広く漫画作品を募集し、応募いただいた作品の中から優秀な作品を選出する「漫画アプリ大賞」を創設いたしました。優秀な作品につきましては5ヶ国語に翻訳し、iPhoneやiPadなどに対応した漫画アプリとして世界に配信、その後はダウンロード数や選考委員の厳正な審査等により、大賞を決定いたします。大賞の作品は日本国内市場向けに紙媒体とパソコンで読むDRM機能付きの電子書籍との同時発売を行います。

また、選考過程につきましては、当社が運営する「USTREAM®スタジオ アキバ」を利用し、一般視聴者に公開する生放送番組の配信も計画しております。

近年、漫画雑誌等の休刊が相次ぎ市場が縮小していく中、当社では漫画家のチャレンジする場を設けるとともに、電子書籍市場をベースに「漫画の新たな活路」を見出してまいります。



Sales Activities

営業の概況



古本市場事業

古本市場事業におきましては、一部の店舗において大規模な店舗改装を行うなど店舗競争力の強化に努めてまいりました。また新規出店といたしまして、古本市場名谷駅前店（兵庫県）、古本市場場庄内店（大阪府）、古本市場梅島駅前店（東京都）の出店を行いました。

また、販促活動につきましては、古本市場の夏のキャンペーンといたしまして「スクラッチ×ワールド 隠された財宝2010」を実施し、「Wチャンススクラッチキャンペーン」等を行うことで各種商材の売上拡大を図ってまいりました。

こうした取組みを行いました。雇用情勢の悪化や個人消費の伸び悩みにより、古本市場事業の売上高は165億6千4百万円（前年同期比5.0%減）となりました。利益面におきましては、営業利益は7億7千3百万円（前年同期比30.1%減）となりました。

アイ・カフェ事業

アイ・カフェ事業におきましては、有料コンテンツの料金を店舗利用料と一緒に支払うことができるネットカフェ決済システム「Chariot（チャリオット）」を直営店全店に導入したほか、新たなコミュニケーションサービスを提供する「USTREAM®スタジオ アキバ」をアイ・カフェAKIBA PLACE店内に開設するなど顧客サービスの強化に努めました。

また連結子会社であるインターピア株式会社におきましては、店舗運営ソリューション関連事業の既存店PC入替等により好調に推移いたしました。

こうした取組みの結果、アイ・カフェ事業の売上高は13億2千4百万円（前年同期比5.9%減）となりました。利益面におきましては、業務の効率化によりコスト削減に努めた結果、営業利益は5千4百万円（前年同期比52.7%増）と黒字定着することができました。

EC事業

EC事業におきましては、新品ゲームの予約でポイント2倍還元や期間限定の特価販売など各種販促活動の実施などによる売上拡大を図ったほか、マーケットプレイスにおける販売強化に努めてまいりました。

こうした取組みにより、EC事業の売上高は2億3千9百万円（前年同期比2.0%増）となりました。利益面におきましては、営業利益は1千万円（前年同期は営業損失1千3百万円）と黒字転換いたしました。

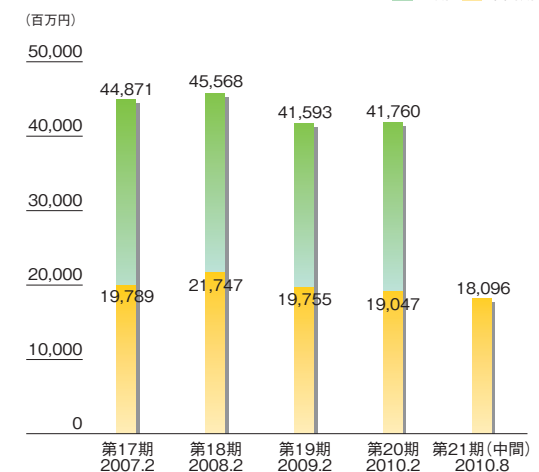
こうした結果、当上半期の連結売上高は180億9千6百万円（前年同期比5.0%減）となりました。一方利益面におきましては、雇用情勢の悪化や個人消費の伸び悩みなど、厳しい環境の下、連結営業利益は3億2千9百万円（前年同期比49.7%減）、連結経常利益は3億1千3百万円（前年同期比49.1%減）、連結中間純利益は1億5千8百万円（前年同期比37.7%減）となりました。

* 事業の種類別セグメント情報は7ページをご参照ください。

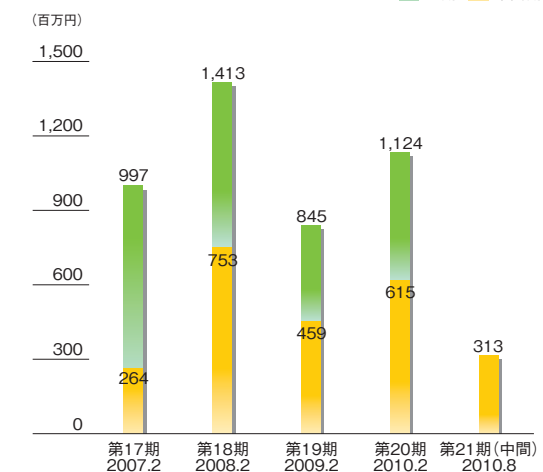
Financial Highlight

財務データ（連結）

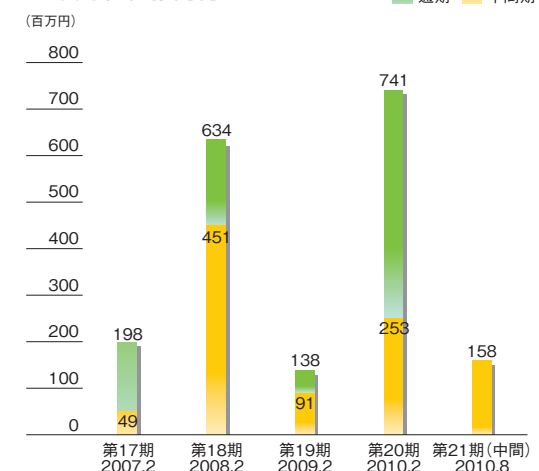
売上高



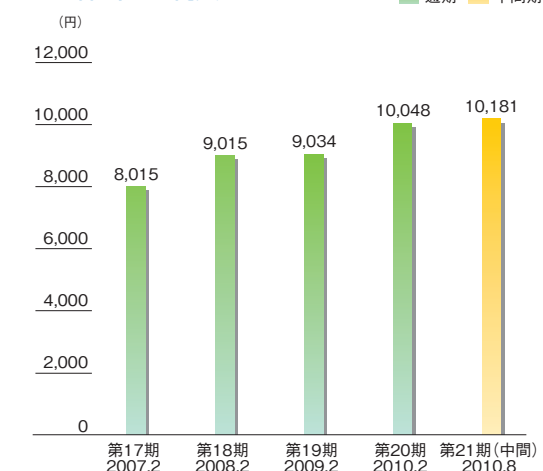
経常利益



中間(当期)純利益



1株当たり純資産



Financial Data

中間連結貸借対照表(要約)

科 目	当中間期 (2010年8月31日現在)	前中間期 (2009年8月31日現在)	前 期 (2010年2月28日現在)
(資産の部)			
流 動 資 産	5,594	6,113	5,780
現金及び預金	915	1,318	1,099
商 品	3,607	3,751	3,660
そ の 他	1,071	1,043	1,020
固 定 資 産	5,409	5,534	5,554
有形固定資産	2,122	2,490	2,222
建物及び構築物	1,159	1,457	1,191
そ の 他	963	1,032	1,030
無形固定資産	316	290	340
投資その他の資産	2,970	2,754	2,991
差入保証金	1,588	1,549	1,551
そ の 他	1,382	1,204	1,439
資 産 合 計	11,004	11,648	11,335

ポイント 解説 1

リース取引に関する会計基準の適用に伴い、リース資産、リース債務を計上しております。

ポイント 解説 2

利益確保及び借入金返済により、自己資本比率が上昇しました。
(前期末46.0%→当中間期末47.9%)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (2010年8月31日現在)	前中間期 (2009年8月31日現在)	前 期 (2010年2月28日現在)
(負債の部)			
流 動 負 債	3,114	4,364	3,966
買 掛 金	862	1,246	995
短期借入金	—	650	600
1年内返済予定長期借入金	892	893	867
そ の 他	1,360	1,575	1,502
固 定 負 債	2,505	2,394	2,050
長期借入金	1,681	1,583	1,189
そ の 他	824	810	860
負 債 合 計	5,620	6,758	6,016
(純資産の部)			
株 主 資 本	5,275	4,723	5,209
資 本 金	1,165	1,165	1,165
資本剰余金	1,119	1,119	1,119
利益剰余金	3,239	2,810	3,169
自己株式	△ 249	△ 372	△ 244
評価・換算差額等	△ 3	4	0
新 株 予 約 権	28	25	27
少数株主持分	82	136	81
純 資 産 合 計	5,383	4,889	5,318
負債純資産合計	11,004	11,648	11,335

中間連結損益計算書(要約)

科 目	当中間期 (2010年3月1日から 2010年8月31日まで)	前中間期 (2009年3月1日から 2009年8月31日まで)	前 期 (2009年3月1日から 2010年2月28日まで)
売 上 高	18,096	19,047	41,760
売 上 原 価	13,143	13,747	31,169
売 上 総 利 益	4,952	5,300	10,591
販売費及び一般管理費	4,622	4,644	9,384
営 業 利 益	329	656	1,206
営業外収益	32	52	86
受取利息及び配当金	3	3	5
そ の 他	29	49	80
営業外費用	48	93	167
支払利息	26	32	62
そ の 他	22	61	105
経 常 利 益	313	615	1,124
特別利益	12	27	29
特別損失	8	141	532
税金等調整前中間(当期)純利益	316	500	622
法人税、住民税及び事業税	156	258	265
法人税等調整額	—	—	△ 382
少数株主利益又は損失	1	△ 11	△ 2
中 間 (当 期) 純 利 益	158	253	741

ポイント 解説 3

厳しい消費環境下に加え前期のような新品ゲームにおけるビッグタイトルがなく、前年同期比で減少しました。

ポイント 解説 4

新規出店、人材育成投資等の先行投資を行う一方で、合併効果等によるコスト削減効果が進み、前年同期比では、経費が減少しました。

ポイント 解説 5

引続き経費削減を進めたものの、減取に伴う粗利の減少をカバーするには至らず前年同期比では減益となりました。

Financial Data

事業の種類別セグメント情報

当中間期 (2010年3月1日から2010年8月31日まで)

(単位：百万円)

	古本市場事業	アイ・カフェ事業	EC事業	消去又は全社	連結
売上高					
外部顧客に対する売上高	16,562	1,314	219	—	18,096
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	9	19	△ 31	—
計	16,564	1,324	239	△ 31	18,096
営業利益	773	54	10	△ 508	329

前中間期 (2009年3月1日から2009年8月31日まで)

(単位：百万円)

	古本市場事業	アイ・カフェ事業	EC事業	消去又は全社	連結
売上高					
外部顧客に対する売上高	17,432	1,405	209	—	19,047
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	1	25	△ 29	—
計	17,434	1,407	234	△ 29	19,047
営業利益	1,106	35	△ 13	△ 471	656

ポイント
解説
6

前期の子会社合併効果による経費削減効果などで、黒字定着しました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (2010年3月1日から 2010年8月31日まで)	前中間期 (2009年3月1日から 2009年8月31日まで)	前 期 (2009年3月1日から 2010年2月28日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	311	906	1,461
税金等調整前中間(当期)純利益	316	500	622
減価償却費	300	328	672
その他営業活動による増減額	△ 190	111	424
小計	426	939	1,719
法人税等の支払額	△ 86	0	△ 228
その他	△ 27	△ 33	△ 28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 202	△ 217	△ 325
有形固定資産の取得・売却による収支	△ 87	△ 145	△ 199
無形固定資産の取得による収支	△ 104	△ 85	△ 170
差入保証金の差入・回収による収支	△ 2	17	39
その他	△ 9	△ 4	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 292	△ 761	△ 1,428
短期借入金の純増減額	△ 600	△ 40	△ 90
長期借入金の借入・返済による収支	516	△ 552	△ 972
その他	△ 208	△ 168	△ 366
現金及び現金同等物の増減額	△ 184	△ 72	△ 291
現金及び現金同等物の期首残高	1,016	1,308	1,308
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	832	1,235	1,016

ポイント
解説
7

税金等調整前中間純利益及び減価償却費の計上があった一方で、仕入債務の減少、法人税支払等の増加により、前中間期比では減少しました。

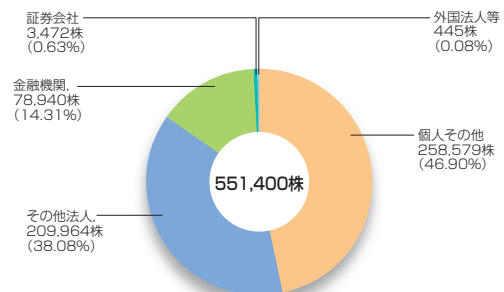
Stock Information

株式の状況 / 会社の概要

株式の状況 (2010年8月31日現在)

■ 発行可能株式総数	2,000,000株
■ 発行済株式の総数	551,400株
■ 株主数	5,867名

所有者別株式分布状況



会社の概要 (2010年8月31日現在)

商号	株式会社ティーツー
英訳名	TAY TWO CO.,LTD.
店舗名	古本市場、ふるい、アイ・カフェ、ブック・スクウェア、Family Mart
創業	1989年10月
設立	1990年4月
本社	岡山県岡山市北区今村650番111 TEL (086) 243-8600
東京本部	東京都港区芝公園二丁目4番1号 芝パークビルA館8F TEL (03) 5408-5100
代表者	代表取締役社長 大橋 康宏
*資本金	1,165,507千円
*従業員数	475名 パート・アルバイト1,716名

*主な事業内容

古本、TVゲームソフト・ハード、DVD、CD、トレーディングカードなどの販売・買取
及びビデオレンタル業務、アイ・カフェ（インターネット・コミック・カフェ）の運営

(注) *はティーツーグループ全体に関する記載であります。

大株主

株主名	持株数	持株比率
株式会社ワイ・エイ・ケイ・コーポレーション	165,000 株	29.92 %
秋山良夫	23,238	4.21
株式会社山陰合同銀行	21,000	3.81
ティーツー従業員持株会	17,016	3.09
株式会社中国銀行	11,000	1.99
大橋康宏	10,910	1.98
東京海上日動火災保険株式会社	10,000	1.81
株式会社みずほ銀行	10,000	1.81
株式会社トマト銀行	8,000	1.45
株式会社アイシーピー	7,300	1.32

(注)・当社は自己株式33,652株を所有しておりますが、表記しておりません。

・株式会社ワイ・エイ・ケイ・コーポレーション及び秋山良夫氏より、同社及び同氏が保有している株式の一部を、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社に譲渡する株式譲渡契約が平成22年10月12日に締結されたとの報告を受けております。
株式会社ワイ・エイ・ケイ・コーポレーションは保有する当社株式165,000株のうち、54,363株をカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社に譲渡しますが、110,637株を引き続き保有することとなり、当社の筆頭株主であることに変わりはありません。なお、秋山良夫氏は当社株式23,238株のうち、23,237株をカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社に譲渡することにより、保有株式は1株となります。

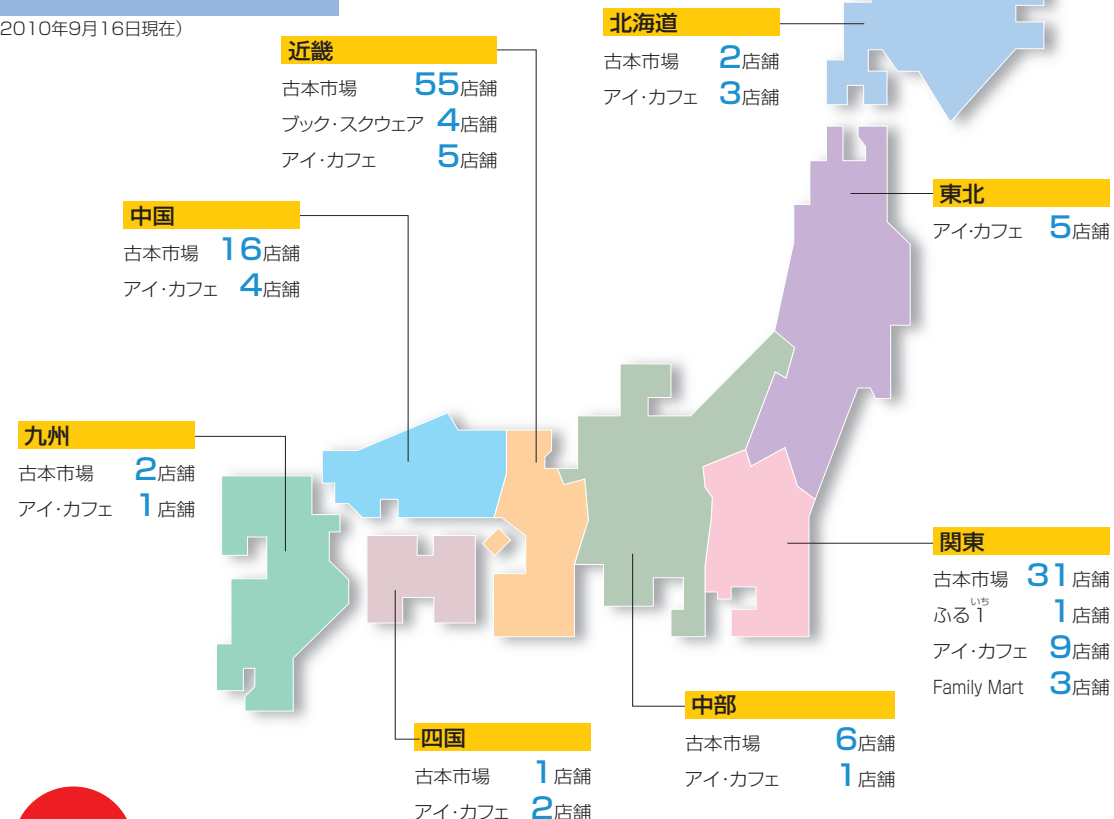
役員 (2010年8月31日現在)

代表取締役社長	大橋 康宏
取締役副社長	堀 久志
常務取締役	片山 靖浩
取締役	関本 慎治
取締役	寺田 勝宏
取締役(社外)	安田 育生
取締役(社外)	吉田 就彦
常勤監査役(社外)	武田 由隆
常勤監査役(社外)	西川 豊
常勤監査役	北村 清人
監査役(社外)	平田 修

Network

ネットワーク

(2010年9月16日現在)



新店舗

古本市場

・名谷駅前店	兵庫県神戸市須磨区中落合3-1-10 LUCCA 名谷2F	2010年4月1日オープン
・庄内店	大阪府豊中市庄内東町3-1-41 グローバルハイツ豊中1F	2010年4月15日オープン
・梅島駅前店	東京都足立区梅島3-3-33	2010年9月16日オープン

※各店舗の詳細につきましては、下記のURLをご参照ください。

<http://www.furu1.net/index.html>